

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

県・市・私	岐阜県立	学校名	坂下高等学校
項目 該当する項目1つ 以上に○を付ける		① 産業界や地域団体等との連携により、地域資源（恵み）を発見・活用する実践	
	○	② 地域を学習のフィールドとし、地域の課題を発見・解決する実践	
		③ グローバルな視点を持ち、地域課題解決型の探究的な学習を推進する実践	
	○	④ 自治体や、高等教育機関、企業等との協働により地域の魅力を知り、課題を発見・解決する実践	
活動のねらい	<p>②地域を学習のフィールドとし、地域の課題を発見・解決する実践</p> <p>「総合的な探究の時間」及び教科「地域連携」に係る学校設定科目を中心に、地域の魅力及び地域課題の発見と解決方法を見出せるようにした。「咲明日(さかした)高校マルシェ」等で発表を行なうことで、表現力と自己肯定感を高めながら、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手となるための生きる力を育む。</p> <p>④自治体や、高等教育機関、企業等との協働により地域の魅力を知り、課題を発見・解決する実践 自治体、高等教育機関、企業、ボランティア団体等とともに、地域の魅力を探究・発信し、地域を活性化するための実践力を身に付けながら、地域に貢献し、将来の地域社会人となるための力を育む。</p>		
活動の特色など			
<p>②地域を学習のフィールドとし、地域の課題を発見・解決する学習</p> <p>本校では、地域をフィールドとした学習を地域連携により本格的に開始している。生徒はタブレットや書籍を利用して地域の情報を収集し、現場を視察して、地域理解を深め(知識・技能)、地域課題を発見し、課題を解決する意見を発表できる力を高め(思考力・判断力・表現力)、地域に積極的に関わろうとしている(主体的態度)。</p> <p>(1) 「総合的な探究の時間」における取組(1、2年) (※参考資料で補足説明)</p> <p>地域探究科1年は、地元企業17社と連携して「企業カレンダー」を制作した。生徒自ら地元企業に出向き、インタビューを行った。またカレンダーにはQRコードを配置し、インタビューの結果や生徒から見た企業の魅力を紹介できるように工夫した。この活動を通して、地域の産業を理解するとともに、地域の課題を発見するきっかけとなる探究活動を実践した。</p> <p>地域探究科2年は、7分野(健康医療、坂下の魅力発信、歴史交通、地震防災、食、伝統芸能、咲明日高校マルシェ)のゼミに分かれ、16の地域課題についての探究活動を実践した。7月のフィールドワーク、9月の中間発表会を経て、「咲明日高校マルシェ」で学習成果を地域に発信、提案する活動を実践した。</p> <p>(2) 学校設定科目における取組 (※参考資料で補足説明)</p> <p>地域探究科2年から、4コース(進学・看護/未来共生/保育/調理・製菓)におけるコース学習が開始した。コース学習の中に設定された教科「地域連携」に係る学校設定科目(「看護演習」「看護支援技術」「フィールドワーク」「キャリアサポート」「デュアルシステム」「保育探究」)で地域連携を通じた深い探究活動の学びを実践することができ、「咲明日高校マルシェ」で学成成果を地域に発信、提案した。</p> <p>(3) 教科での取組(家庭科、福祉科)</p> <p>家庭科では、地域探究科2年(保育コース)と生活デザイン科3年(保育コース)は、「咲明日高校マルシェ」で、リニアに関する内容のペーパーサート劇や「手作りおもちゃで遊ぼう!」の体験ができる「リニア広場」のコーナーを設置し、日頃の学習成果を発表、実践した。</p> <p>地域探究科2年(調理・製菓コース)では、調理の時間を利用して開発した「あじめこしょうのチーズビスコッティ」を販売した。中津川市福岡地区で約400年前から販売されているトウガラシの一種である「あじめこしょう」を取り入れ、伝統的な地元食文化の魅力を地域に発信した。</p>			

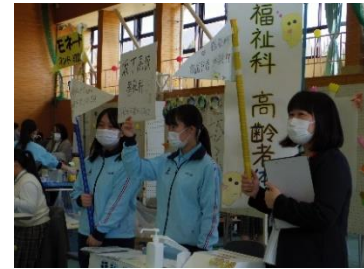
福祉科では、日頃の学習を活かした高齢者体験&ハンドマッサージを通して、地域の方に福祉への関心を高めてもらおう取組を実践した。レモネードスタンドでは、売上金は全て小児がん募金に寄付し、小児がんについての理解を深めてもらった。



< リニア広場の様子 >



< チーズビスコッティ販売の様子 >



< 福祉科ブースの様子 >

(4) 「咲明日高校マルシェ」(以下「マルシェ」とする)の開催 (※参考資料で補足説明)

11月3日(金)に、学校を会場にした「マルシェ」を今年度も開催した。目的は、①学習成果の中間発表、②地域住民や地域で活躍する人材との連携、③地域の方との異世代交流、である。今年は時間を昨年より1時間延長し、人口400人余りの町(坂下町)の、生徒数120人余りの本校に、60を超える出店と、約1400名もの来校者があり、会場はおおいに盛り上がった。生徒は授業や特別活動(部活動、家庭クラブ)の学習成果を、展示や発表を通して、地域の方に発信することができ、自己肯定感や自己有用感を高める良い機会となった。

今年は、坂下中学校の「総合的な探究の時間」の学習成果をまとめた展示や、第一中学校と第二中学校の吹奏楽部がステージで演奏するなど、新たに中学校の参加がみられたのが特徴的であった。



< マルシェの様子 >



< マルシェの様子 >



< マルシェの様子 >

④自治体や、高等教育機関、企業等との協働により地域の魅力を知り、課題を発見・解決する学習

自治体(中津川市役所、中津川警察署)、高等教育機関(中京学院大学)、企業、ボランティア団体との連携により、地域の魅力と課題を発見し、課題解決のために何ができるかについて探究し、校外の行事に積極的に参加し、地域貢献に努めている。下記は、その活動の一例である。(※その他の活動については、参考資料を参照)

[例]公民館講座

7月28(金)日に坂下公民館と連携を取り、夏休みふれあい講座「めざそう福祉探偵」を開催した。参加対象は小学校4~6年で、当日は13名の小学生が参加した。企画は、福祉探偵を目指して各コーナーにあるミッション(高齢者体験、車いす体験、ポッチャ体験など)をクリアし、ゴールを目指す内容である。ミッションの場所には、坂下高校福祉科生徒がガイド役となり、小学生との交流を通して、福祉の魅力を伝える機会となった。福祉を目指す生徒が少ない課題に対し、どのように小学生に福祉の魅力を伝えるかを意識しながら、小学生との交流を実践した。



< 福祉体験の様子 >



< 福祉体験の様子 >



< 福祉体験の様子 >

<参考資料>②の取組についての詳細・関連活動

(1) 「総合的な探究の時間」における取組(1年)「企業カレンダー」制作

生徒のインタビュー内容は、①入社のきっかけ、②仕事のやりがい、③働く中で学んだこと、④これからの目標の4項目で、生徒が訪問を通して感じた企業の魅力を含め、QRコードで閲覧できるように工夫した。下記は、その一部になる。

やさかこども園 本社勤務 株式会社 坂月

2024 3 March 2024 4 April

岐阜県立坂下高等学校 地域探究科1年生「総合的な探究の時間」

やさかこども園

企業DATA
所在地/中津川市坂下1578-1
TEL/0573-75-2167
代表者/園長 柳谷さん

坂下高校生が「坂下」を探究!

Q 経験年数と仕事内容を教えてください。
A (本下さん) 今年で4年目になります。五歳児を担当しています。保育だけでなく、お便りを書いたり事務作業をしています。
Q 働く中で学んだとは?
A 仕事をしてきた中で、保護者とのコミュニケーションが大切であることがわかりました。
Q 仕事のきっかけ、やりがいは?
A 子どもが好きという思いから始めました。昨日できなかったことが今日できるようになっているなど、日々の成長を見守れることが仕事にやりがいです。

寄っていただいた方
年長クラス 未使用クラス
木下 永生 鈴木 正志

高校生から見た「ここが魅力!」子どもの成長を優しく見守ってくれている!

< 企業カレンダー >

< インタビューの回答ページ >

(1) 「総合的な探究の時間」における取組(2年)ゼミ活動

地域探究科2年のゼミは、7名の教員が担当しており、1ゼミの生徒は4~5人である。5月にテーマを設定、その後、テーマに関する情報を収集して、7月にはゼミごとに、フィールドワークに1日出かけた。その後、情報を分析・整理して、9月に中間発表を行った。

中間発表は、ゼミごとにポスターセッション形式で、地域の方と1年生に向けて発表した。その後、「マルシェ」に向けての発表準備を行った。「マルシェ」後は、引き続き探究活動を行い「SDGsみらい甲子園」及び「中津川市域学発表」に向けたプレゼンテーション制作を実施していく。

ゼミの分野	テーマ	ゼミの活動内容
健康医療	健康とウォーキング 高齢者の健康	高齢者の運動不足を課題と捉え、ウォーキング大会を企画中である。「マルシェ」では、「けんぱち君体操」を、来場者と一緒になって実施した。
	看護師を増やすためには	地域の看護師不足解消のために、その実態を知るために加子母小学校、加子母中学校にアンケート調査を依頼し、若年層の看護師志望の減少が分かった。その成果をポスターにまとめて、「マルシェ」で展示した。
地域の魅力発信	坂下飲食店マップ制作	坂下町の飲食店組合から依頼を受けて、マップ制作に取り組んでいる。「マルシェ」では、マップ制作のアイデア募集をした。
	マスコットキャラクター制作~中津川市魅力発信~	地域活性化の手立てとして、「ゆるきやら」の作製を考えた。「マルシェ」では、ネーミングを募集し、今後、地域に提案する予定である。

歴史交通	北恵那交通の歴史と展望 苗木城址のまとめ ～見どころと歴史調査～	2つのテーマを探究した結果、「廃線跡ウォーク&苗木城の魅力発見ツアー」を企画し、中津川市役所及び苗木まちづくり協議会に提案した。担当者との交流会を経て、実現に向けた御意見・御助言をいただき、再度、ツアー実現に向けての探究活動を開始している。「マルシェ」でポスターを展示した。
地震防災	防災ボトルとクリアハザードマップ	断層学習より防災ボトルについて知り、防災ボトルの普及を目的に活動している。10月8日に開催された「中津川まちなか文化祭」では、防災ボトルを作成できるブースを出店した。「マルシェ」でも同様のブースを出店して、防災意識を高める活動に取り組んだ。
	阿寺断層スイーツ	阿寺断層の知名度を上げるために、塚下町内のカフェ ROCCO とコラボし、「マルシェ」では、断層スイーツを販売した。
食	子どもの貧困と子ども食堂	ひがしのなかま食堂(子ども食堂)への参加や子育てドロップスの訪問を経て、地域の子どもの貧困について捉え、坂下高校での子ども食堂の実現を目指して活動中である。
	地産地消の推進活動	恵那市農政課による講話や食べとるマルシェへの参加、831企画(農家グループ)への訪問を経て、「マルシェ」では831企画ブースの前で、地産地消を呼びかけるビラ配りをした。
	馬籠宿の食文化を広める	馬籠宿の店舗の魅力調査や、自作の英語アンケートを用いて、外国人観光客にアンケートを実施し、その成果をポスターにまとめて、「マルシェ」で展示した。
伝統芸能	恵那文楽について 坂下地歌舞伎について 降嫁行列の歴史を広める	坂下地歌舞伎や恵那文楽について調査した。フィールドワークを通して、普及のための手立てを、中津川市役所と連携しながら検討していく予定である。「マルシェ」でポスターを展示した。
マルシェ	咲明日高校マルシェ開催への取り組み	出展者募集や出展者向け説明会の運営、広報活動を行った。「マルシェ」では、来場者へのアンケート作成、飾り付けの準備を行った。



<歴史交通ゼミの様子>



<食ゼミ(地産地消の推進活動)の様子>



<伝統芸能ゼミの様子>



<地震防災ゼミ(アンケート調査)の様子>



<馬籠の食文化を広める(アンケート調査)の様子>



<中間発表会の様子(地域の魅力発信)>

(2) 学校設定科目における取組

①フィールドワーク(地域探究科2年(進学コース))

地域に出かけて地域の現状や課題を知り、その課題についてリーサス(地域経済分析システム)を使用して分析し、フィールドワークを通してプレゼンテーション20枚を作成し、「地方創生☆政策アイデアコンテスト」に応募した。リーサスについては、中京学院大学より須栗 大先生を講師に招いて、人口と観光を事例にリーサスの使用と活用方法についての講義を受けた。

コンテスト応募後は各自の作品を1枚のポスターセッションにまとめて「マルシェ」で展示した。下記は6名の生徒のテーマである。今後は、地域課題についての探究テーマを一つ設定し、中津川市役所を訪問して、聞き取り調査を実施する予定である。

- ・「あつまれ てんくうの森～根の上高原を活用し、地域の観光業を活性化させよう～」
- ・「音声ARで、日本人観光客を増やせ！」
- ・「未来に新たなる希望を！～施設から作る少子化対策の提案～」
- ・「リノベーションで事業所アップ～若者の転出を減らすには～」
- ・「下呂市と共同！！贅沢バスツアー」
- ・「中津川市民の絆は、誰にも引き裂けない！！」



<坂下町内フィールドワークの様子>

<中津川市内フィールドワークの様子>

<ポスター制作の様子>

②キャリアサポート(地域探究科2年(未来共生コース))

地域活性化のために高校生が取り組めることとして、2つの取組みを実施した。1つ目は、七夕に合わせて、生徒が毎日利用している坂下駅の飾りつけを行った。2つ目は、写真家の丸岡 翔氏を招いて、写真撮影の基本を学んだ後、「木曽路勝手に応援団」と称して、坂下駅、落合川駅、田立駅、南木曽駅で撮影を行った。

生徒は、自分たちの撮影した写真を使用して、プレゼンテーションを行った後にポスターを作製した。今後、作成したポスターをどのように活用していくかを検討していく予定である。下記は、ポスターの一例である。



<南木曽駅応援ポスター>



<田立駅応援ポスター>



<落合川駅応援ポスター>



<坂下駅応援ポスター>

③看護演習、看護支援技術(地域探究科2年(看護コース))

看護演習では、中京学院大学看護学部より4人の講師と、中津川市民病院から1名の看護師を招いて、看護に関する基礎的な授業を実施している。看護支援技術は、本校福祉科の教員が担当し、看護の現場で求められる基本的な知識や技術を、福祉の観点から教えている。

フィールドワークとして、訪問看護による体験を行い、看護の現場を視察することで、看護への関心を高めながら探究活動を行っている。



<ベッドメイキングの様子>



<マルシェ(ハンドマッサージ)の様子>



<訪問看護の様子>

④デュアルシステム(地域探究科2年(未来共生コース))

前期11日、後期11日、年間22日の就労体験を、木曜日に実施している。生徒は企業を前期と後期で替えて就労体験に参加している。受け入れ企業も、この1年間で20社に増えた。生徒は、就労体験を通して、自分の仕事への適性や仕事のやりがいを知ることができる。

デュアルシステムの振り返りは、キャリアサポートの1時間を利用して実施している。生徒は、仕事を通して地域の産業の現状や課題を知るきっかけとなり、「総合的な探究の時間」に生かすことができるように支援している。



<デュアルシステムの様子>



<デュアルシステムの様子>



<デュアルシステムの様子>

⑤保育探究(地域探究科2年(保育コース))

保育探究では、「蛭川森の幼稚園くりくり」での見学交流、「やきか子ども園」での保育実習、「ひと・まちテラス」で実施された「まちなか文化祭」への参加、図書館祭りのボランティア参加、DREAM GARDENボランティア参加を通して、実際に園児や保護者と接することで、保育に関して設定した自らの課題に対して、探究活動を深掘することができた。



<保育園実習の様子>



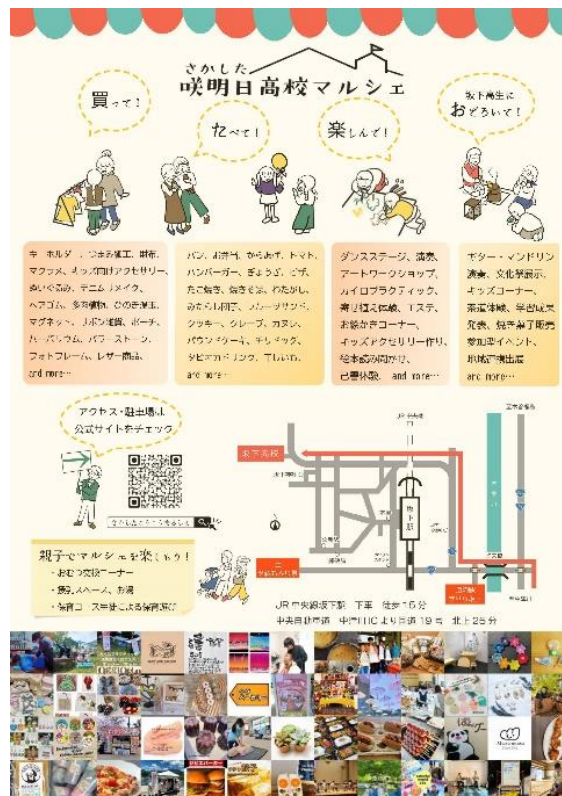
<森の幼稚園くりくり訪問>



<DREAMGARDENの様子>

(3)教科での取組み (4)咲明日高校マルシェ

下記は、「マルシェ」のポスターで、恵那地区中学校、関係の行政機関、中津川市内の企業を中心に配布し、「マルシェ」開催の周知を行った。



下記は、各教科や特別活動での取組である。生活デザイン科3年(フードコース)と地域探究科2年(製菓・調理コース)は、「こうじキッチンこぎちゃん」に対して、地元食材を利用した「彩りビビンバ」のレシピを提案し、「マルシェ」ではブースを設置して、お弁当の販売を通して、地元食材の魅力を発信した。

地域探究科1年の「総合的な探究の時間」では、竹あかりの作り方を坂下まちづくり協議会副会長の半沢岳彦氏から講義を受け、「マルシェ」ではブースを設置して、訪れた方に、竹あかりの作り方を通して、地域の魅力を発信した。

英語科は、生徒がお勧めする中津川市周辺の観光スポットと、坂下で800年以上続く伝統的な「花馬まつり」について、英語で紹介した展示をした。中津川市を訪問する外国人観光客が増加する中、今後の活用方法について検討していく予定である。

部活動では、「マルシェ」にて茶華道部が「坂高 和カフェ」を催し、約70名の地域の方が、楽しく茶道体験を行った。またギター・マンドリン部が受付前に、来場者に対して演奏を披露した。



<お弁当販売の様子>



<竹あかりブースの様子>



<茶道体験の様子>

<参考資料>④の取組についての詳細・関連活動

(1) 米寿のお祝い(中津川市役所との連携)

平成22年度から「米寿のお祝い品」を、全校で制作しており、今年度は約600人分を制作し中津川市に届けた。昨年度から、家庭クラブの生徒が坂下中学校を訪問し、1年生に制作協力をしてもらった。この活動を通して、米寿のお祝いをするだけでなく、地域の高齢者の方がいつまでも住みやすく、この地域で暮らして良かったと感じる町づくりに、今後も協力していきたい。



< 坂下中学校での様子 >



< 米寿のお祝い品 >



< 中津川市への贈呈式の様子 >

(2) クエストエデュケーション(企業との連携)

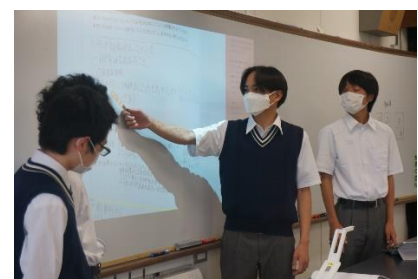
地域探究科1年では、学校設定科目の「産業社会探究」で、探究学習の方法を学ぶために、クエストエデュケーションを昨年度より導入している。企業から提示されたミッションを解決するための方策を考える学習活動である。今年度は、下記の6社(イオンリテール、オカムラ、塩野義製薬、キモノハーツ、テクマトリックス、Yahoo)のミッションについて、グループ活動を通して、自分たちの解決策についての探究活動を行っている。



< グループ討議の様子 >



< インタビューの様子 >



< 発表の様子 >

(3) 中京学院大学との連携

令和3年に教育・連携活動で協力し、地域を担う人材育成を進めることを目的とした連携協定を締結した。今年度は連携協定に基づく2つの活動を行った。地域探究科1年が6月21日(水)日に大学を訪問し、模擬授業(看護、健康栄養、保育)及び「地域の活性化について」の講義を受けた。2年からのコース選択の参考及び地域の関心を高めるきっかけになった。

地域探究科1年、2年(保育コース)と普通科3年が、11月10日(金)に「保育講座」を、地域探究科1年が、11月13日(月)に、リーサスの取り扱いに関する講座を受け、今後の探究活動に生かせる貴重な体験をした。



< 大学見学での模擬授業の様子 >



< 保育講座の様子 >



< リーサス講座の様子 >

(4) 交通安全運動、ボランティア参加、イベント参加、異世代交流

①交通安全運動(中津川警察署、坂下地区交通安全協会との連携)

交通安全運動にMSリーダーズと希望者が 7 月 14 日(金)に参加した。中津川署と坂下地区交通安全協会と連携し、通行する車両のドライバーにグッズを渡し、交通安全に努めるように啓発活動を行った。夏の交通安全運動に使用する横断幕と啓発グッズは家庭クラブが中心になって製作した。



< 啓発活動の様子 >



< グッズ製作の様子 >



< 横断幕製作の様子 >

②ボランティア活動

コロナ5類への移行を受けて、ボランティア活動への参加も増えてきた。5月28日(日)には、DREAM GARDEN、6月10日(土)には、坂下町内のプランターの花植えボランティア、9月17日(日)には、椈の湖そばの花まつりボランティア、10月1日(日)には、馬籠フェスタに、本校の生徒が参加した。

また、地域探究科(2年(未来共生コース))の生徒が「キャリアサポート」の授業で、7月に坂下駅の七夕飾りつけボランティアを実施した。



<花植えボランティアの様子>



<椈の湖そばの花まつりボランティアの様子>



<馬籠フェスタボランティアの様子>

③イベント参加

イベントへの参加は、10月8日(日)に開催された「中津川まちなか文化祭」に参加した。ギター・マンドリン部による演奏、地域探究科2年(保育コース)の生徒による紙芝居、絵本とPOPの展示、福祉科の生徒による高齢者体験コーナー、地域探究科2年の生徒による防災ボトル体験を設け、来場された地域の方に楽しんでもらった。

10月29日(日)には、ハッピーフェスティバルにて、福祉科2年生がハンドマッサージのコーナーを設置し来場された方に体験してもらった。



<ギター・マンドリン部演奏の様子>



<紙芝居披露の様子>



<ハッピーフェスティバルの様子>

④異世代交流

・やさかこども園

5月26日(金)に、やさか子ども園を本校に招き、園児との交流を図った。地域探究科(2年保育コース)の生徒は、様々な遊びを通して、園児との関わり方について、学習する良い機会になった。



< 交流の様子 >



< 交流の様子>



< 交流の様子 >

・スマホ教室

県では「誰一人取り残されないデジタル社会である岐阜県」の実現に向けて、情報格差(デジタル・デバイド)対策に取り組んでいる。その一環として、県デジタル戦略推進課と連携して、高齢者と高校生が、スマートフォンを通じた世代間交流により、高齢者のデジタルスキルアップを目指す目的で、11月20日(月)に、スマホ教室を開催した。



< 講習の様子 >



< スマホ教室の様子 >



< スマホ教室の様子 >

<参考資料>②④の取組についての新聞掲載記事、東濃地区MSニュース掲載記事



< 岐阜新聞4月19日掲載 >



< 岐阜新聞9月15日掲載 >



< 岐阜新聞 9月27日掲載 >



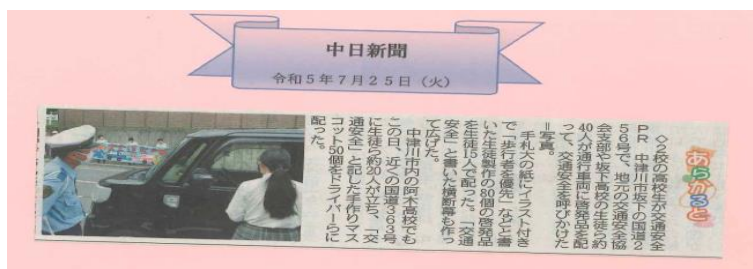
< 岐阜新聞 11月10日掲載 >



< 中日新聞 7月29日掲載 >



< 中日新聞 9月20日掲載 >



< 中日新聞 7月25日掲載 >

中日新聞

令和5年11月7日(火)

さかした 咲明日高校マルシェ

中津川・坂下

校舎を借りてメニューを決めた弁当を現場に配る生徒等、中津川駅周辺の賑わいで



中津川市の繁華は、第2回咲明日高校マルシェが開幕した。朝早くから多くの市民が訪れ、生徒たちも笑顔で接客していた。会場には、生徒たちが手作りの商品や、地元産の野菜などが並び、賑やかな雰囲気が漂っていた。このイベントは、地域の活性化と、生徒たちの社会経験の場として行われる。当日は、多くの市民から好評を博し、生徒たちも大活躍した。この機会に、地域と生徒の絆を深め、今後の成長を期す。生徒たちは、この経験を活かし、今後の生活に活かしていきたいと語っていた。

成果発表 1400人来場

地域と育つ 販売案内役 全生徒が運営

70近いブースが並び、生徒たちが笑顔で接客していた。外から来た業者も多かった。相対している業者と生徒との関係が、このイベントを通じて深まることが期待されている。販売案内役の生徒たちは、この機会に、地域と生徒の絆を深め、今後の成長を期す。生徒たちは、この経験を活かし、今後の生活に活かしていきたいと語っていた。

< 中日新聞 11月7日掲載 >

地域とともに 私たちが主役

東濃地区MSニュース No.007 20230818
東濃地区高特 生徒指導主事会議

坂下高校 7月14日(金)13:30~14:30 夏の交通安全啓発活動

7月14日(金)、夏の交通安全県民運動に合わせ、本校MSリーダーが学校近くの国道56号線で安全運転を呼び掛けました



この日のために製作した横断幕を国道わきに掲げ、中津川警察署のキャラクター『御用の五平』と『たれみちゃん』などをデザインした特製お守りとチラシなどを配布しました。

本校MSリーダーは26名が登録、活躍しています。



中津川署員の方や地区交通安全協会の皆さんと一緒に参加したこの啓発活動では、あらためて自分たちの交通安全への意識も高めることができました。

- 【生徒の感想】
- ・呼びかけに応じてドライバーの方が笑顔でありがと句 『お疲れさっ と喜んでくださり嬉しくなりました
 - ・多くの方々に、少しでも交通安全を再認識していただけるような活動になったと思うの、取り組んで良かったです。
 - ・啓発グッズを手にした方たちが笑顔で帰って行かれたので良かったです
 - ・車から横断幕が見やすいように工夫しドライバーさんの安全を願いながら活動できました

プライバシーポリシー掲載写真等の個人情報は使用の許諾を得ています。掲示場所二次利用など取扱に注意願います

< 東濃地区MSニュース >